

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2007~2010
課題番号：19330069
研究課題名 (和文) 未公開企業に対する銀行行動の決定要因とその影響に関する計量分析
研究課題名 (英文) Empirical Analysis on the determinants of bank lending to unlisted firms

研究代表者

忽那憲治 (KUTSUNA KENJI)
神戸大学・大学院経営学研究科・教授
研究者番号：00275273

研究代表者の専門分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学 財政学・金融論
キーワード：中小企業、銀行融資、金融危機、未公開企業、追い貸し

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、1993-2005 年間の未公開企業と公開企業の両者から構成される大規模なパネルデータを用いて、銀行融資の決定要因を明らかにすることが主たる目的である。企業属性のデータのみならず、銀行側の属性のデータを合わせて用いることによって、どのような銀行が、どのようなときに、どのような企業に対して不健全な融資（追い貸し）を実施するのかを明らかにすることができる。

2. 研究の進捗状況

上場企業（大企業）については Nikkei Needs Financial Quest のデータ、未公開企業（資本金 8000 万円以上の中小中堅企業）については帝国データバンクのデータを用いて、1993-2005 年のパネルデータを作成した。この中には企業属性に関わるデータと財務データの両者が含まれており、銀行が公開企業と未公開企業に対してどのように異なる対応をとっているかを分析することが可

能となる。American Economic Review に掲載された Peek and Rosengren (2005)では、対象を上場企業に限定した分析ではあるが、財務状況の悪い不健全な企業（ゾンビ企業）に対して、財務状況の弱い銀行が追加的に資金を提供しているとする、「Evergreening (追い貸し)」現象がみられることを明らかにした。われわれの研究では、公開企業のみならず、未公開企業のデータを含めて、両者の企業への融資行動の違いを分析したところ、上場企業に対しては財務状況の悪い企業に対する追い貸し現象（不自然な淘汰）が同様にみられたが、未公開企業に対しては、健全な企業に対して融資が増加するという、上場企業とは異なる現象（自然な淘汰）がみられた。さらに、1993-2005 年を 1997 年の金融危機前、金融危機直後の 1998-99 年、金融危機後の 2000-05 年の 3 つの期間に分けて分析したが、金融機関が置かれている状況によっても融資行動の違いがあることを明らかにすることができた。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

研究成果の途中経過を報告した早稲田大学ファイナンスセミナーにおいて、トップジャーナルに投稿可能な水準に論文の質を高めるためには、銀行融資と社債発行との関連性を考慮する必要があることが指摘された。現在、社債発行に関するデータを整備しており、ジャーナルへの投稿スケジュールからすれば、やや当初の計画から遅れているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

昨年までに明らかとなった以上の分析結果を受けて、本年は以下の分析を加えることで論文の内容を改善させ、ファイナンスのトップジャーナルへ投稿する予定である。改善ポイントの中心は、銀行融資と社債発行との関連性を考慮した分析を実施することである。これまでは企業に対する銀行融資の状況のみを分析してきたが、例えば、健全な企業に対する融資が減少することの背景には、社債発行が銀行融資に代替したために銀行融資の減少が生じている可能性がある。そこで、社債発行のデータを入手し、社債発行ダミー、社債発行の増加ダミー、減少ダミーなどを加えた上で、社債発行が銀行融資の増減に及ぼす影響をコントロールした分析を追加したいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)